

	日付	内容
第1回	6月20日(木)	イントロダクション
第2回	7月4日(木)	コンセプチュアルアート マルセル・デュシャンを祖とするコンセプチュアルアートの歴史は現代美術の歴史そのものといっても過言ではありません。まずはその基本をおさえることから始めましょう。
第3回	7月18日(木)	ゲスト講師: 宇治野宗輝(アーティスト) 大量消費社会が急速に拡大した20世紀以降の「物質世界のリサーチ」を基盤に、大量生産品と技術を再構成し、近代の文化を再定義するサウンド/スカルプチャー/パフォーマンスの複合プロジェクト「The Rotators」に取り組み、各地で活動している宇治野宗輝さんをゲストに迎え、これまでの活動全般のお話を伺います。
第4回	8月1日(木)	ゲスト講師: やなぎみわ(現代美術作家) 国内外で多くの展覧会を開催し、現代美術だけでなく演劇界でも活躍するやなぎみわさんをゲストにお招きし、お話を伺います。
第5回	8月29日(木)	ゲスト講師: 泉太郎(美術作家) 映像、ドローイング、オブジェなどあらゆるメディアを交錯させたインスタレーションを表現主体とし、国内外で作品を発表している泉太郎さんをお招きし、お話を伺います。
第6回	9月12日(木)	フォーマリズム 作家の感情や意図や、社会的背景などを一切排除した批評理論であるフォーマリズムについて学びます。
第7回	9月26日(木)	ポリティカルアート 社会を批判的に表現し鑑賞者に様々な問題を提起するポリティカルアートについて学びます。
第8回	10月10日(木)	作品論評の作法を学び、論評を行う ゲスト講師: 福住廉(美術評論家) 美術批評家の福住廉さんをゲストに迎え、展覧会や作品についての基本的な文章の書き方、読む人への伝え方をレクチャーしてもらいます。次の第9回までに、講師の指定する感想文を提出します。
第9回	10月24日(木)	作品評論の作法を学び、評論を行う ゲスト講師: 福住廉(美術評論家) 展覧会の感想文を事前に提出し、講師の添削を受けます。添削を受けた文章を例に、良い点や改善点を話し合います。また、添削を受け、次回の授業までに各自リライトし、提出します。
第10回	11月7日(木)	作品評論の作法を学び、評論を行う ゲスト講師: 福住廉(美術評論家) 講師に最終確認してもらった文章を受け取ります。最終版を受講生同士で読み合い、お互いの文章を俯瞰して見る練習をします。
第11回	11月15日(金) 11月16日(土) 11月17日(日) のいずれか 1日以上	アートプロジェクトの現場を見る 複数組のアーティストが参加するTERATOTERA祭りにボランティアスタッフとして参加し、運営側の動きや、アーティストの作品制作の過程を体感します。
第12回	11月21日(木)	ゲスト講師: 篠田千明(演出家、作家) 快快(劇団)の中心メンバーとして演出、脚本、企画を手がけ、現在はバンコクを拠点としソロ活動を続け、劇の成り立ちそのものを問う作品を制作している篠田千明さんをお招きし、お話を伺います。
第13回	12月5日(木)	ゲスト講師: 森村泰昌(美術家) 一貫して「自画像的作品」をテーマに作品を作り続ける森村泰昌さんをお招きし、個人の作家活動を始め、横浜トリエンナーレ2014や釜ヶ崎芸術大学のお話などを伺います。
第14回	12月19日(木)	ゲスト講師: 榎野展正(アウトサイダー・キュレーター) 日本唯一のアウトサイダー・キュレーターとして、表現せずには生きられない人たちに焦点を当て、全国各地で取材を続けながら執筆や展覧会の企画を行い、2019年に『榎野展正のアウトサイド・ジャパン展』を開催した榎野展正さんをゲストに迎え、キュレーターとしてのアートプロジェクトへの関わり方等についてお話を伺います。
第15回	1月9日(木)	ゲスト講師: hyslom/ヒスロム(アーティストグループ) 加藤至、星野文紀、吉田祐からなるアーティストグループ。造地地の探検で得た人やモノとの遭遇体験や違和感を表現の根幹に置き、身体を用いて土地を体験的に知るための遊び「フィールドプレイ*」を各地で実践し映像や写真、パフォーマンス作品としてあらわし、またその記憶を彫刻作品や舞台、映画へと展開させているヒスロムをお招きし、お話を伺います。
第16回	1月23日(木)	受講生によるアートプロジェクトの企画発表
第17回	2月6日(木)	受講生によるアートプロジェクトの企画発表